

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

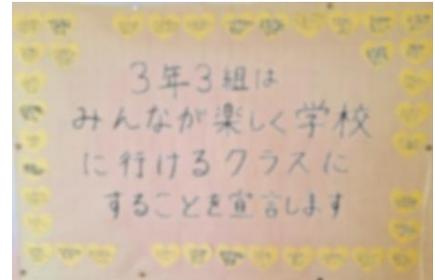
#### 【取組1】(A中学校及びB中学校)

##### 校内・教室掲示の工夫

###### ・いじめ根絶宣言

年度の初めに個人でいじめ防止の目標を立て、学級内にまとめて掲示した。

いじめのない安心できる居場所づくりを学級で目指した。



###### ・学校行事での活躍の掲示

学校行事での学年の生徒の活躍の場面を学年の廊下に掲示した。

学校行事を振り返り、学年への帰属意識を育んだ。



##### 構成的グループエンカウターの実施 (A中学校)

席替え等の生徒間の人間関係で配慮を必要とする時期に構成的グループエンカウターの手法を活用したレクリエーションを実施した。

席替え後に行った構成的グループエンカウターを新しい席の班員と行うことで、新しいつながりを作る「きずなづくり」の活動とすることができた。



#### 【取組2】(A中学校)

生徒指導を意識した授業に取り組んでいる。単元内に積極的にペアワークやグループワークを取り入れており、「共感的な人間関係」を育むことができるよう意図的に指導している。

また、学んだことを活用する場面では、本時の学習課題の解決方法を生徒自身が考えて選ぶことができる「自己決定の場の提供」を意識した授業も行っている。

#### 【取組3】(C中学校)

生徒に実施している「生活意識調査」の結果を踏まえた「不登校の未然防止」についての研修を実施した。学年ごとに今後の学校生活で新たな不登校が生じないような取組の工夫を協議し、学校全体に共有した。

また、道徳等の研究授業を実施し、授業力を向上させるとともに、生徒の意見を引き出す方法を共有した。

## 多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

### 支援会議（A中学校）

生活指導部会に加え、不登校支援部会を週に1回実施した。学年の教員だけでなく、SSWやSC、特別支援教室専門員、不登校対応巡回教員とも情報共有を行い、不登校生徒への支援の方針を検討し、情報共有を図った。

### アウトリーチによる支援（C中学校）

不登校対応巡回教員がSSWと連携をして登校が難しい生徒の家庭に対してアウトリーチによる支援を行っている。生徒だけでなく、保護者にも悩みや不安を聞き取り、今後の予定を共有して支援を行っている。

### 校内別室における支援（D中学校）

#### ソーシャルスキルトレーニングの実施

特別支援教室の巡回指導教員にソーシャルスキルトレーニングの手法を学び、校内別室でレクリエーションを実施した。コミュニケーションに不安を感じる生徒の不安を解消できる支援を行った。



#### 不登校対応巡回教員の学習支援

不登校巡回教員の訪問日に、希望する生徒を対象に授業の補習を行い、学習支援を実施した。



### デジタル機器を活用した支援（C中学校）

校内別室の生徒の登校等の状況を職員室のホワイトボード及び一人1台端末で情報共有している。

担任が生徒の登校状況を把握しやすいようにデジタル機器を活用し情報共有の機会を増やしている。



### 関係機関との連携（A中学校）

SSW等とも連携し、区内の関係機関（共育プラザ、教育支援センター）と生徒の情報共有や事前面談のサポートを行っている。さらに、関係機関の職員と学校との情報共有の機会を設けている。

## 成果

- 校内別室を利用している生徒が安定して登校できるようになった。
- 登校できなかった生徒が、校内別室等に登校できるようになった。

## 課題

- 全ての生徒への支援の充実を図り、不登校の未然防止に努め、不登校生徒の割合の低下につなげる。